



低速公共交通(MAYU)で まちが変わる



株式会社桐生再生 代表取締役 清水 宏康

西の西陣、東の桐生と言われ1300年の歴史を持つ織物の町桐生。平成24年7月に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。本町1,2丁目に少しずつ観光客の増加がみられるが、主幹産業だった織物業の衰退による人口の減少に悩む地区にとって、重伝建地区を生かした振興策に期待が膨らむ今日です。また、群馬県における、富岡製糸場を主体とした絹産業遺産群が世界遺産の登録を待ち望まれる今日、桐生市は現在でも織物業が稼働しており、観光客の増加に拍車がかかるものと考えております。

私たち桐生再生は、低速電動バス(MAYU)を活用し、周遊観光に努め町の活性化する手段として、平成25年10月に活動を開始しました。低速電動バスを利用した観光客に優しい町づくりは、当然ながら地元高齢者の人々に対しても優しい町となります。

これからの桐生市は、環境(脱温暖化)と観光を目玉として、まちの整備を進め、多くの人たちを受け入れることにより、町の税収の発生と若者たちの雇用を生み出せると考えます。

私たち桐生再生としてはMAYUを活用し、JR及び東武鉄道と連携し、各イベントを企画して来客者の増加を計画しています。また、市内の小学生を対象に、脱温暖化を体験させるべく授業の一環として活用していきたいと考えています。MAYUで町をゆっくりとしたスピードで見学してもらい、市内、市外、県外問わずたくさんのお客様に新たな発見や多くの体験をしてもらいたいと考えております。

写真..のこぎり屋根を木造で再現したMAYUの車庫



写真..旧齋織物を買取り、飲食店やイベント会場として再利用を図る



低速電動コミュニティバス(MAYU)のご案内

MAYUは、最高時速19キロ、乗車定員は8名で、内蔵バッテリーと8つの車輪についたモーターで動きます。100ボルト電源から8時間ほどでフル充電でき、晴天時は屋根のソーラーパネルが電力を補います。桐生市内のEV製造会社「シンクトゥギャザー」(宗村正弘社長)が東毛地区などの30近い企業に備品を発注して組み立てました。昨年、国の交付金5千万円を活用して3台増産し、黄・青・ピンク・緑の4色があります。現在、桐生市の観光振興を担い、2つのコースを無料運行しています。



【遊園地・有鄰館ルート】・・・桐生市内随一の観光施設である桐生が岡遊園地・動物園と有鄰館を結ぶ定期コースを土日祝日に運行。

【絹遺産ルート】・・・桐生駅北口から山手通り、重伝建、本町通りを約20分で巡るコースで、木・金曜日に運行。

【遊園地・有鄰館ルート】

【絹遺産ルート】



【問い合わせ先】
桐生市観光交流課
TEL：(0277)46-1111(内線566)

株式会社桐生再生
TEL：(0277)46-6916

